

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900226		
法人名	医療法人社団 育生会		
事業所名	グループホームふかくさ(1階)		
所在地	京都府京都市伏見区深草西浦町8丁目19番地		
自己評価作成日	H26年7月10日	評価結果市町村受理日	平成26年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kan=true&JigyosyoCd=2690900077-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年8月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H21年4月に1ユニット9名からスタートし、H25年10月より3ユニット27名となりました。基本理念である「和」を原点とし誇りと真心で実践しています。地域から信頼される施設作りにも力を入れ地域女性会、町内会よりボランティアの受入れも定期的に行っています。運営法人が医療法人であり医療との連携も確立しており、主治医の往診も定期的に行い、健康管理に努めています。毎日の食事は、手作りを基本とし季節の食材を使い利用者様と共に献立を考えています。また、地域の方々には、開設当初よりホームに対して理解があり今後も地域に貢献して行きたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは昨年移転し3ユニット27人の利用者に増え新しい職員も多い中、法人やホームの理念を浸透させながら、「和」を原点とし利用者を中心に考え笑顔を大切に職員間で連携し支援できるように努めています。理念を基に業務目標や個々の職員の目標を立て半期毎に振り返り実践に繋げ、職員間で活発に意見を出し合いサービスの向上に繋げ、カンファレンスや会議の記録を丁寧に残し全職員が共有できるようにしています。食事作りに力を入れ、栄養バランスや旬の食材、利用者の希望等を考慮して献立を立て、調理や食事を共にし利用者の楽しみとなっています。また、自治会をはじめ女性会や民生委員等の地域との関係が良好であり、折り紙や手品、夏祭りの盆踊りなどのボランティアに来てもらったり、近隣の方が気軽に相談に来られるなど徐々に地域に浸透しているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

グループホームふかくさ(1階)
自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を元に、事業所独自の理念を作り全職員が実践出来る様に名札裏にも携帯し常に共有出来るよう日々努めている。	「和」を原点とする法人の理念の基、ホーム独自の理念を作り、入職時には理念に込められている思いを伝え、朝礼時に唱和しています。理念を基に業務目標を作ったり、個々の職員の目標を立て半期毎に振り返りながら実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域行事には参加させて頂き施設での季節行事には、お声掛けし地域の方との交流を大切にしている。	日々ホーム前の掃除の時などに地域の方と立ち話をする等の近所付き合いがあり、回覧板や近隣に住む役員から地域の行事等の情報を得ています。地藏盆や地域の祭りの神輿を見に行くなど交流したり、民生委員や地域のボランティアによる手品やネイルアート等の来訪があり交流を楽しんでいます。ホームの夏祭りには女性会の方が盆踊りに来てくれたり、地域の方の来訪もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方の相談件数も増えており、施設見学も兼ねて助言や必要があれば自宅にも訪問しサービスの紹介なども行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、ご家族様、地域代表者の方に、ご出席頂き、ご利用者様の様子、活動状況の報告を行い、感想、助言を頂きサービスの向上の取り組みに繋げている。	運営推進会議は、家族や地域包括支援センター職員等の参加を得て併設施設と合同で開催しています。ホームから実践報告を行い、質疑応答を行っています。家族からのリハビリについての質問に答えたり、地域包括支援センターについて家族に知ってもらう機会を作っています。地域住民代表の方の出席が難しい状況です。	地域の情報を得たり協力関係を深めていくためにも、地域の方の参加が得られるような働きかけが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議議事録を提出時には、施設状況を伝え相談、アドバイスを頂き、また施設広報紙発行時には持参し施設アピールもしている。	区の職員が参加する小規模多機能事業所連絡会にホームの管理者も出席したり、運営推進会議の議事録を役所に直接持って行った際にホームの様子を伝えています。また、市から研修案内が届き、できる限り参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を行い全ての職員が理解出来るよう取り組んでいる。利用者様の行動をし制止することはなく職員は見守りながら支援している。	身体拘束についての法人内研修の資料の閲覧や研修担当者による施設内研修が全職員が受けられるよう複数回開催し、周知を図っています。新人マニュアルにもわかりやすく記載があり活用したり、不適切な対応があればその都度注意しています。安全管理上玄関の施錠をしていますが、外に行きたい様子が見られたら寄り添い一緒に出掛けることもあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員全員が同じ認識が持てるよう勉強会を行い理解をしている。施設外研修にも参加している。また、職員のストレス等を理解する為、常にコミュニケーションをとり防止に努めている。		

グループホームふかくさ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在3名の利用者様が後見人制度を利用されている。今後も必要な方へは支援体制がとれるよう積極的に外部研修等あれば参加し活用出来るよう支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり説明し納得頂き契約し、入居後もご家族とは密に連絡を取り合い信頼関係が築けるよう日頃から努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には、口頭、書面にて説明し玄関にはご意見箱を設置し意見、要望をいつでも記入して頂けるよう体制をとっている。	定期的に写真を載せた便りを送り日頃の様子を伝え、家族の面会時や電話で意見や要望を聞いています。またアンケートを実施し、結果及びホームの対応を家族に伝えています。個々のケア内容についての意見が多く、衣替えの時期等の意見をもらった時などは全体のサービスに活かしています。今後、家族会も実施していきたいと考えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットにて日々の申し送り、定期的なミーティングにて情報、意見交換を行い改善に繋げており、月1回の法人会議にて管理者は報告、相談し運営に反映している。	毎日、朝夕のミーティングや業務の中でも意見を言い合える関係ができており、申し送りノートを利用して全職員が周知できるように取り組んでいます。月に1回のユニット会議で出された職員間の意見を主任会議で話合うなど運営に反映できる体制も整っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の知識、技能の向上が、ご利用者様の暮らしの質の向上に結び付くという観点を持ち職員は年2回の自己評価シートを活用し目標を明らかにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修への参加を促している。また、個々の職員とも面談を行い相談、助言を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修会に参加し意見交換する機会を設けている。近隣施設見学、事業所連絡会に参加し交流を図っている。		

グループホームふかくさ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご相談、お申し込みの段階で、ご本人、ご家族が困っている事、不安なお気持ちを慎重に時間をかけ納得して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安な事等、慎重に伺いながら安心して頂けるよう信頼関係が築けるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談時に何に困って何を必要としておられるか見極め私達が出来る事をお伝えし適切なサービスの提供が出来る様支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者様を人生の先輩であると尊厳の念を持ち教えて頂きながら、支え合う暮らしが送れるよう馴染みの関係を作りながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には日頃からこまめに連絡をとったり、施設行事等にも参加して頂けるよう日頃からこまめに連絡を取っており、その都度、ご利用者様の近況状況を伝えている。また、面会時にはご要望をお伺いしやすい環境づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の生活歴を把握し、ご入居後も馴染みの関係が継続出来るよう家族様とも協力し合い支援している。	以前からの友人や知人、教え子等の来訪があり、居室やリビングでお茶を出し、時には職員が会話を助けゆっくり過ごしてもらえるように支援しています。家族とよく行っていた店に行ったり、入居前に入っていた老人会に参加している方もいます。また、受診支援の帰りに勤めていた場所に行くこともあり、馴染みの関係継続の支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の相性やその時の状況を把握し職員が間に入り良好な関係が保てるよう見守り支え合うよう努めている。		

グループホームふかくさ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院となった、ご利用者様も法人のMSW、ご家族と連絡を取り合い退院後の受入先施設の確保、他サービス調整等もやっている。利用終了されていても近況をお聞きしたり、ご相談の連絡もあり今までの関係作りを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の想いをさりげない動作や言葉から受け止め職員間で情報の共有に努め、その都度センター方式を見直している。	入居前に家族に生活歴や好み、趣味、暮らし方等の情報を記載してもらい、面談でも話を聞き意向や思いを把握しています。入居後は日々の関わりの中から得た情報をカンファレンスや会議で話し合い、言葉にならない思いも汲み取れるよう検討しています。カンファレンスや会議の記録を丁寧に残し、全職員が共有できるようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様、ご家族様から今までの生活歴等、情報をお聞きし現在の状況も把握出来るよう情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の日々の暮らしの中で心身状態の変化の把握をし個別ケアの提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の思いや、ご家族様のご意向を聞きながら、日々の記録、アセスメントをもとに介護計画を作成している。状況の変化があれば必要に応じてミーティングをし計画書の見直しをしている。	本人の思いや家族の意向、アセスメントの基サービス担当者会議を開催し、介護計画を作成しています。毎月カンファレンスを行い計画作成担当者がモニタリングを行い計画が現状に即しているか確認しています。状況に変化がない場合でも6か月ごとに見直しをしています。見直しに当たっては再アセスメントを行い、家族の意向や医療情報等も得てサービス担当者会議を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の日々のご様子は個別ファイル、ケア記録等を活用しながら職員間で情報収集し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様、ご家族の状況、要望に応じて併設施設である小規模多機能施設と連携を取りながら柔軟なサービスが出来る様取り組んでいる。		

グループホームふかくさ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域女性会ボランティアの方、近隣大学の学生の受け入れもし、交流を深めており町内の理髪店、花屋、コンビニも利用しながら地域資源活用できる支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に以前からの、かかりつけ医の継続も出来る事も説明している。また、連携施設である病院の主治医が定期的に往診に来ており健康管理に努めている。	かかりつけ医の継続も可能ですが、母体が医療法人であり殆どの利用者が協力医に変更しています。月に2回往診があり利用者の必要に応じた間隔で診察を受け、緊急時にもアドバイスを受けています。受診は基本的に家族が同行しますが、状況に応じて眼科等の受診支援も行っており、都度家族と情報交換しています。看護職員による日々の健康管理や夜間の連絡体制も整えられています。また、希望に沿って歯科の往診を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しておりご利用者様の看護記録にて情報共有し主治医に連絡、相談しながら健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携施設である病院の主治医、MSWと密に連携を取り合いながら支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向、想いも踏まえた上で当事業所において出来る限りの支援をさせて頂く体制である。連携施設である病院の主治医と情報交換を共有し対応している。	入居時に重度化について対応指針にそって説明しています。重度化に伴いホームで支援できること、できないことを説明し、基本的には病院に入院としています。家族の希望に沿ってできる限りの支援をしたいと考え、医師と家族との話し合いを重ねながら取り組んでいます。今後、勉強会や研修を行いたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し周知徹底しており、救急救命講習会等受講もしている。連携施設である病院が緊急時の受入先となっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練は、消防署の立ち会いのもと実施している。消火器、AEDの実施訓練も地域の方の参加を募り行っている。	年に2回消防署の立ち会いの下、昼夜を想定し通報や初期消火、避難誘導等の訓練を実施しています。運営推進会議で訓練の報告をしたり、地域の方へ訓練の案内をしていますが参加は得られておらず、今後消防団への働きかけなどを検討しています。	

グループホームふかくさ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様には人生の先輩である事、常に尊厳を守った対応や言葉かけの配慮をしている。また研修参加し理解を深めるよう努めている。	接遇マナーについての内部及び外部研修を行い、親しくなっても慣れ合いにならないように努め、利用者を尊重した対応を心がけています。敬語を使い利用者の呼び方も苗字で呼ぶようにし、排泄の支援時にもさりげなく声をかけ周囲に配慮しています。また、不適切な対応があれば職員間で注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、ご利用者様が気軽に思いや希望が話せる環境作りをしている。表情や動作等、想いを受け止め職員間で共有し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れの中で、ご利用者様1人ひとりのペースを大切にゆったりと居心地良く暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の希望に応じ町内の理髪店の方がその都度来所してくださったり、こちらから出掛けて行き白髪染めをされている。季節に応じた装いやお洒落が出来る様に、ご本人、ご家族のご要望を伺いながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立から料理作りまで、ご利用者様の希望をお聞きしながら準備をしている。下膳、食器洗いと、ご利用者様と一緒に楽しみながら教えて頂きながら行っている。	担当職員が栄養バランスや旬の食材、利用者の希望等を考慮して献立を立てています。肉や魚、野菜はそれぞれの店に発注し、その他のものは利用者も一緒に買い物に行っています。下ごしらえや味付け等のできることを利用者にも携わってもらっています。職員も同じ食卓に着き一緒に食べながら、和やかな食事時間となっています。日々にはおやつの手作りを楽しみ、時には餃子を買に行ったり、年末に寿司をとることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量等、毎日、記載をしている。主治医と連携し定期的に栄養状態の確認も行っている。連携施設である病院の栄養管理士のアドバイスも定期的に受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に訪問歯科を利用し口腔ケアの実施を徹底している。毎食後の口腔ケアを見守り支援している。夜間の義歯洗浄等は、ご希望が無い限り、職員で管理している。		

グループホームふかくさ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様1人ひとりの排泄パターンを把握しオムツは使用しない方針でその方に合わせた声掛けや誘導をし、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を用いて個々の利用者の排泄パターンを把握し、仕草等も観てトイレ誘導を行い失敗のないよう支援しています。カンファレンスで支援方法を検討し、おむつの業者に状況を伝えアドバイスをもらったり、昼夜の状況に合わせてパッド等を選びながら自立に向かうよう支援しています。退院後などはおむつから紙パンツ、布の下着への変更も速やかにできるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排泄パターンの把握をしている。食事にも食物繊維の多い食材を使い乳製品もおやつに提供する等、取り入れている。日々の散歩や身体を動かすレクリエーションを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様の状況に合わせて入浴をして頂いている。希望される方があれば、夕食後の入浴も柔軟に対応し入浴を楽しめるよう支援している。	入浴は各ユニットごとに利用者の希望を聞きながら、通常午前中から夕方までの間で支援し、希望や状況によっては21時まで対応しています。一人ずつ湯を入れ替え掃除し、こだわりのシャンプーやせっけんを持参したり、入浴剤や季節湯を楽しんでもらっています。拒否される場合は家族に勧めてもらったり、時間や職員を変えながら入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの身体状況、意向に応じて居室や共有スペースでの休息を促している。夜間に安眠出来る様に生活リズムを整え支援している。日中は出来るだけレクリエーション、体操等、活動的な時間を作り安眠に繋がる支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は個人ファイルに管理し何時でも確認出来るようになっている。症状の変化は記録に残しながら看護師に相談し主治医と連携しながら確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の生活歴など情報収集し日々の暮らしの中で個々の力に応じた役割が持てるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様のご希望を常に伺いながら買い物、散歩等出掛けており、季節に応じて外出先も職員は考えながら、ご家族の協力のもと個別外出支援を行っている。	気候や天気の良い時には近隣の公園に散歩に出かけたり、日常的には買い物に出かけています。季節の桜やあじさい等の花見や紅葉狩り、ドライブに行っています。家族と外食に行ったり、旅行、自宅に戻るなど、協力を得ながら外出してもらっています。	

グループホームふかくさ(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当事業所にて預り金の金銭管理をしている。ご利用者様のご希望に応じて個別に買い物やお出かけを楽しんで頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と何時でも電話連絡出来る様協力頂いている。お手紙や年賀状のやり取りが続けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内に庭がないが生花や観葉植物を飾り季節を感じられるよう壁の飾りの張り付けにも、季節感を出し配慮している。共用空間は、ブライتكケアの実施をし限られた中でも安らげる居場所作りを目指している。	共有空間では、カーテンや灯りで明るさを調節したり、温湿度管理、清潔が保てるよう利用者と掃除を行い、利用者に心地よく過ごしてもらえるように努めています。五山の送り火などの貼り絵や折り紙で季節の花を作ったり、生花をテーブルの上に生けるなど、季節が感じられるように配慮しています。また、少人数で過ごせるようソファを置いたり、利用者の暮らしや関係性を配慮しテーブルを配置しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様が過ごしたい場所で落ち着いてお過ごし出来る様、席の位置を考えている。限られた共用空間にソファを置いたり、併設施設の屋上にベンチを置き、天気の良い日は日光浴、夕方には夕涼み等に散歩がてら出かけたりもしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様、ご家族様と相談しながら使い慣れた物を持参して頂いている。お仏壇に手を合わせる方等、ご利用者様が居心地良く過ごせるよう心配りをしている。	今まで使っていた馴染みの物を持ってきてもらうよう説明し、入居時は家族と相談しながら配置を決め、日々の暮らしの中で暮らしやすいように配置を変えることもあります。箆笥や棚、テーブル、テレビ等を置いたり、趣味の琴や尺八、押し花等の作品を飾っています。また、野球選手のポスターやひ孫の写真などを飾り、その人らしい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の「できること」「わかること」得意分野に合わせて出来る限り自立した生活が送れるよう環境を整備し、ご本人の出来る事を大切にしている。		